

燕市 GIGA スクール通信

つばくろロボキッズ教室 スタート！

つばくろロボキッズ教室では、子どもたちがプログラミングをとおして、論理的に考える力や諦めずに物事に取り組む力を育むことをねらいとしています。講師には長岡技術科学大学の湯川高志教授をお迎えし、全 9 回の予定です。第 1 回はプログラミングソフトの基礎研修を受けたあと、湯川教授の指示どおりにプログラムを作成しました。プログラムをロボットに転送！しかし、なかなか思うように動いてくれません…。子どもたちは、プログラムの調整を繰り返し、粘り強く取り組みました。

ロボットを思いどおりに動かすには
人をお願いするとき

あれ、もってきて！
(言葉で言う) → いいよ!

ロボットをお願いするとき
あれ、もってきて！
(プログラムで命令する) → いいよ!

もし、思いどおりにならなかったら
頼みかたを変えて、お願いしよう → プログラムを修正しよう

つばくろロボキッズ教室 第1回 4

EV3ロボットに転送(ダウンロード)し、
USBケーブルを抜いて、動かしてみよう

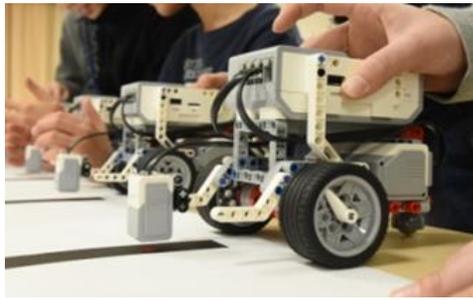
前進 パワー: 30% 2回転
前進 パワー: 80% 3回転
右回り パワー: 30% 回転: 350度
右回り パワー: 30% 回転: 360度

プログラムの転送

つばくろロボキッズ教室 第1回 39



湯川教授からの直接指導！



LEGO マインドストーム EV3

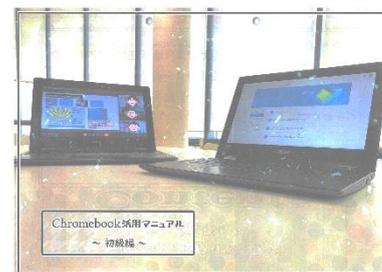


なかなか思うように動かない

Chromebook 活用研修

4月に燕市に転入された先生方を対象に Chromebook 活用研修(初級編)を実施しました。今回の目標は「オンライン授業ができる」です。

4名に増員された燕市 ICT 支援員が講師を務めました。今後も、操作に関する質問や「こんなことやってみたい」要望などありましたら、いつでもご連絡ください。先生方のお手伝いをさせていただきます。



学校と家庭をつなぐ クロームブック活用の可能性！

現在の活用状況に各学校にきかせていただきました。

授業、家庭学習での活用

- ・登校できない日が続く児童には、オンライン授業が受けられるようにしている。
- ・ドリルパークで自主学習（習熟）を行わせている。
- ・オクリンクを使って課題を与えている。
- ・フォームを活用した練習問題に取り組みさせている。
- ・宿題や課題をPDFで配付している。



感染状況により、いつ臨時休業（学級閉鎖）の対応となるか予想できません。学校での授業での活用を積み重ねることが、緊急時に対応するための、何よりの準備となります。また、毎日クロームブックを持ち帰り、「緊急時にも学校と繋がることができる（授業を受けられる・みんなと同じように先生の話が聞ける）」ことが子どもたちや、保護者の皆さんの安心にもつながります。

- ・Webサイトを活用した自主学習に取り組みさせている（タイピング練習や調べ学習）
- ・1年生もクロームブックを持ち帰り、保護者とともに使い方に慣れるようにしている。

子どもたちがクロームブック等の機器を使用することに習熟することは、子どもたちの学びの可能性を広げることに繋がります。教科書や辞書と同じようにINPUT、ノートやペンのようにOUTPUTのツールとして活用できるようになることを目指します。さらに、オンライン接続を活用することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために力を発揮すると考えています。

学校と家庭（子ども・保護者）をつなぐ

- ・クラスルームを使って、その日の連絡を伝えている。
- ・欠席や出席停止の生徒への連絡手段として活用。



終学活で、明日の予定や持ち物を板書して連絡し、子どもたちがノート（連絡帳）に記入していると思います。書き写す時間がないときや、大切な連絡の場合には、板書を先生がChromebookのカメラで撮影、クラスに共有するという方法も考えられます。**板書のおさと、Chromebookの便利さのミックス!**いろいろな活用が考えられそうですね。

- ・登校できない児童が**オンラインで学級担任と面談**を行っている。
- ・学級閉鎖などの際に、健康観察、短学活に利用した
- ・運動会の応援団の自宅練習のためのビデオ配信。
- ・6送会の様子を保護者に視聴してもらった。
- ・オンラインでの授業参観、オンラインでの学年懇談会。



先生方も子どもたちも、顔が見えると安心しますね。画面越しなら、マスクなしの表情も見えるかもしれませんね。

正しい情報モラルを身につける



クロームブックの他にスマートフォン、タブレットやSNSが子供たちにも急速に普及しています。ICT 端末等を適切に扱う責任を児童生徒が自覚できるよう自分で考え、解決できるように指導を工夫していくことが必要です。

文部科学省が端末を使って情報モラルを学べるe-learningコンテンツを作成しています。子どもたちが問題に答えながら学習を進めることができます。右のQRコードからご覧いただけます。

